



プレストレスト コンクリート（以下 PC と略記）の建築主体構造への応用は、最近とくに活潑となってきたが、これをさらに普及し促進する目的で、官界、業界各

関係方面からの意見、希望などを交換し、お互いの理解と協力を一そう深めるための懇談会を催した。当日は各関係方面から多数の方々の御出席を賜わり、長時間にわたって懇談し、きわめて有意義であつた。以下に当日の御意見、御希望などをとりまとめ、懇談会の要約を読者諸賢に御伝える。当日の各方面からの御発言をそのまま掲載すべきではあるが、紙面の都合から要約せざるを得ないのはまことに残念である。御出席を賜わった方々の御許しをこうとともに、読者諸賢の御了解をお願いする次第である。

（会誌編集委員会）

プレストレスト コンクリート建築に関する懇談会（要旨）

日 時：昭和 34 年 9 月 15 日 14 時

場 所：丸之内会館 2 回集会室

出席者（順不同、◎印当日の議長、○印書記担当）

建設省住宅局指導課長	前岡 幹夫氏
同 建築研究所長 代理	中野 清司氏
同 関東地建営繕部	大島 久次氏
国鉄施設局建築課長	山崎 兌氏
東京都建築局指導部長 代理	南条 義治氏
防災技術課長	猪股 俊司氏
極東鋼弦コンクリート振興株式会社	海上秀太郎氏
ピー・エス・コンクリート株式会社	渡辺 和夫氏
オリエンタルコンクリート株式会社	前田 敏愛氏
興和コンクリート株式会社	木下日出男氏
同	中島 儀八氏
別子建設株式会社	岡本 剛氏
（株）岡本建築設計事務所	横山 不学氏
横山建築構造設計事務所	河合 三郎氏
PC 工業協会会長 代理	吉田徳次郎
PC 技術協会側 会長	◎坂 静雄
副会長	友永 和夫
理事	細井 潤三
〃	浅野 忠
〃	木村又左衛門
〃	○六車 照

本会会長 吉田博士の挨拶ののち、副会長 坂博士（議長）より懇談会の主旨、目的の説明があった。すなわち PC の建築主体構造の応用は近年ますます盛んになりつつあるが、建築規準法には PC 構造に関する条項はあげ

られておらず、わずかに建設大臣告示（昭和 28 年 6 月）によって $\phi 5 \text{ mm}$ 以下のピアノ線の使用と静定構造物だけが認められているにすぎない。そのため建築許可申請などの行政上の手続きに手間どり、事実上設計を変更せざるを得ないことがきわめて多いようである。最近の PC 構造の進歩から考えると、現行のままではその発展を阻害するおそれもあり、また、優秀な新材料、新工法も種々考案されている状態から、PC 構造を規準法の中に採用して戴くにはどうするのがよいか、また、現段階において過渡的な方法として行政上の手続きを円滑に進行させるにはどうしたらよいか、などの諸問題を討議するのが目的である。

まず、関係官庁側からの御意見、御希望として、官庁としては PC 構造が優れた構造であればとり上げることに、地方庁では PC に精通する者がいないので、各地方庁での建築申請の審査は事実上不可能であること、行政上の責任は建築許可、確認の責任者である建築主事が負わなければならない、これが主事にとって現段階では重荷であり慎重にならざるを得ないこと、施工が設計図書どおりに行われるかどうか疑点を持っていることなどがあげられ、とくに、PC 構造物の PR をもっと行って戴きたいとの御希望があった。建築規準法に PC に関する条文を入れることは、以上の諸問題が明らかになってから解決されるであろうとのことであつた。

これに対し研究者、業界の御意見として、PC 構造の使用にはきわめて慎重で、例えば従来の鉄筋コンクリート構造では耐火性試験（とくに主体構造について）を行

った例がほとんど無いのに対し、PC では多くの耐火性試験を行って主体構造に使用する PC については十分な耐火性を持っていることを確認していること、ラーメン構造の実大または模型実験を行って力学的性質を明確にしていること、施工の確実性については部材にプレストレスを導入することが載荷試験を行っているのと同じであり、施工が悪ければプレストレス導入ができないこと、施工手順が複雑で現在では専門の業者が一流請負業者でなければ施工不可能であり、現場には PC 専門家が必ずついていること、などから施工の確実性は心配がなく、むしろ普通の鉄筋コンクリート構造よりはるかにすぐれた良品質の建物が建設されるなどがいわれ、希望事項としては、以上のように PC 構造は力学上、施工上の問題はほとんど残されていない優れた構造であることから、早急に建築規準法において法律化して戴きたいこと、そのための必要な対策を指示して戴きたいこと、現段階において認可、確認などの行政上の手続きをできるだけ迅速に行って戴きたいことなどがのべられた。また各関係方面の PR は今後一そう十分に行うとのことであった。

つぎに、現在の数少ない PC 構造建築の申請に対する審査について討議され、少数例ではあるが PC 建築を育てていくために何らかの行政上の機関を置く問題に議論が集中した。現在、PC 構造の審査機関として不燃建築協会が官庁側の依頼によりその用務を代行しており、これを利用すればどうかとの意見があった。しかし、実際問題として不燃建築協会はもともと簡易不燃建築の審査指導を行ってきた機関であって、PC の専門家も少なく、また、PC 設計者にも不燃建築協会での審査に不満を持っておられる方が多く、他の新しい機関、例えば PC 専門家の多いプレストレスト コンクリート技術協会とか、プレストレスト コンクリート技術協会と不燃

建築協会との協同で新しい審査部門を設けるといった方向に進めるべきだとの意見が多いようであった。この問題については今回の懇談会の席上でただちに決められるべきものでもなく、各方面の意見を尊重して各方面の代表者によってさらに討議検討していただくことになり、竹山謙三郎（建設省建築研究所長）、加藤六美（東京工大教授）、横山不学（横山構造設計事務所長）の三氏にこれを依頼することになった。PC 協会としては坂副会長を代表として討議に参加していただくことになった。

以上のほか、土木学会ではプレストレスト コンクリート設計施工指針（昭 30 年）が制定されて PC 構造の審査が非常にやりやすくなったこと、および、国鉄では PC 構造の研究のために PC に興味を持つ技術者に集まって戴き、集中的に研究も重ねた上 PC を土木構造物にとり入れることを決定したことなどの例をあげられ、建築においても学会の規準を早く制定して戴けば審査の点では問題がなくなるのではないかと（現在、建築学会では設計規準案の作成が終り、近く発表の予定である）、また、各関係官庁においても早急に PC 研究の体制をとるべきではないか、などの活発な意見もあった。

要するに今回の懇談会においては建築学会 PC 構造設計規準の発表を機会に、少しでも PC 構造の普及発展を促進しようではないか、ということ各関係方面の方々に再確認して戴き、さらに、現在の過渡期においては行政上の手続きを少しでも早く、かつ確実に行うことができるよう、竹山、加藤、横山、坂の四氏に御検討願うことになり、有意義に会を終ることができた。散会に当たって吉田会長から、今回の懇談会を機会に日を改めて再び懇談会を開き、各方面からの御意見、御希望を交換し、お互いの理解を深めてゆこうではないかとの挨拶があり、出席者一同で夕食をともにしたのち散会した。

【京都大学工学部 六車 照・記】

御 寄 稿 の お 願 い

この雑誌はプレストレスト コンクリートのわが国でただ一つの総合技術雑誌です。会員諸兄の技術向上にいささかでも役立つように日夜苦心して編集に当たっておりますが、多くの問題を広くとりあげるのは、これではなかなか大変なことです。一方的になっても困りますし、とにかく皆様の卒直な声をお聞かせ願えませんか。自由に気楽に意見を述べて頂く会員欄、疑問点を相談していただきたい質疑応答欄、工事の状況、施工の苦心点を現場から速報してほしい工事ニュース欄、口絵写真欄、その他報告、資料など、御気軽にどしどし原稿をお寄せ下さい。また、新設してほしい欄とか、もつと充実してほしい欄、雑誌に対する建設的な御意見なども募ります。少しでも多く皆様の声を反映した親しみやすい雑誌に育て上げたいと念じておりますので御協力願います。以上の原稿、御意見などはすべて下記へお送り下さい。

東京都千代田区丸の内 3 の 8 プレストレスト コンクリート技術協会編集委員会 電話 (27) 6171-5